

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年3月23日(2006.3.23)

【公開番号】特開2001-114915(P2001-114915A)

【公開日】平成13年4月24日(2001.4.24)

【出願番号】特願平11-290994

【国際特許分類】

C 08 J	5/24	(2006.01)
B 32 B	27/38	(2006.01)
C 08 G	59/62	(2006.01)
C 08 K	3/36	(2006.01)
C 08 K	7/16	(2006.01)
C 08 L	61/06	(2006.01)
C 08 L	63/00	(2006.01)
C 08 L	101/00	(2006.01)

【F I】

C 08 J	5/24	C F C
B 32 B	27/38	
C 08 G	59/62	
C 08 K	3/36	
C 08 K	7/16	
C 08 L	61/06	
C 08 L	63/00	A
C 08 L	101/00	

【手続補正書】

【提出日】平成18年2月2日(2006.2.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0061

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0061】

【実施例】

以下、実施例により本発明をさらに具体的に説明する。各実施例、比較例においては、樹脂硬化物、複合材料の物性の測定は次に示すとおりとした。

<樹脂硬化物(マトリックス樹脂)の引張破壊歪み>

180で2時間加熱し樹脂組成物を硬化させ、樹脂硬化物から、厚さ2mmの樹脂硬化物板を作製し、これよりJIS K7113記載の方法に従ってダンベル型試験片加工機で試験片を作製する。次に、試験片に歪みゲージを付着し、速度1mm/分で引張試験を行い、引張破壊歪み(%)を求める。

<プリプレグの厚さ>

プリプレグを2枚の表面の平滑なテフロン板間に挟持して密着させ、7日間かけて徐々に150迄温度を上昇させてゲル化、硬化させて板状の樹脂硬化物を作製する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0067

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0067】

この積層体について、JIS K 7073に従い、0°引張強度(MPa)を求める。

<積層体の圧縮強度CHW(吸水後)>

上記積層体を71の温水中に2週間浸漬し、充分に吸水させた後、JIS K 7076に従い、82の環境下で纖維方向から圧縮負荷することにより、圧縮強度CHW(MPa)を求める。

<積層体(複合材料)の板端剥離強度EDS>

プリプレグを($\pm 25^\circ / \pm 25^\circ / 90^\circ$) s 構成で、擬似等方的に10枚積層し、オートクレーブにて、180で2時間、0.59MPaの圧力下、昇温速度1.5/分で成型して積層体を作製する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0068

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0068】

この積層体について、JIS K 7073に従い、引張試験を行った後、板端剥離が生じる強度を測定して板端剥離強度EDS(MPa)とする。

<積層体(複合材料)の衝撃後圧縮強度CAI>

プリプレグを(+45°/0°/-45°/90°)3s構成で、擬似等方的に24枚積層し、オートクレーブにて、180で2時間、0.59MPaの圧力下、昇温速度の影響観察のため、昇温速度0.5/分と1.5/分の2条件で樹脂を硬化せしめて積層体を作製する。